



- I. 研修科の長 藤澤英文  
 II. 臨床研修責任者 藤澤英文  
 III. 臨床研修指導医数（厚生労働省認定） 5名

#### IV. 認定医数・専門医数・指導医数

日本医学放射線学会

放射線診断専門医 ..... 4名

放射線治療専門医 ..... 2名

研修指導医 ..... 6名

日本核医学会

核医学専門医 ..... 3名

PET 核医学認定医 ..... 3名

日本 IVR 学会

IVR 専門医 ..... 2名

日本乳がん検診精度管理中央機構

検診マンモグラフィ読影認定医 ..... 1名

日本がん認定医機構

がん治療治療認定医 ..... 3名

#### V. 主な診療実績

[読影]

CT ..... 37,897 件

MRI ..... 15,487 件

核医学 ..... 2,486 件

[IVR]

腫瘍の塞栓・動注療法 ..... 24 件

血管系の塞栓療法 ..... 32 件

中心静脈ポート留置 ..... 103 件

CT 下生検 ..... 34 件

CT 下ドレナージ ..... 4 件

経皮的ラジオ波治療 ..... 3 件

[治療] ..... 334 件

#### VI. 診療科の特徴

当科は、全領域の CT、MRI、単純写真、消化管造影、核医学検査などの画像診断、IVR（画像下治療）、放射線治療を最新の機器を用いた環境下で学ぶことが可能です。

2001 年の開院から大学附属病院としては、はじめてフィルムレス、フル PACS の環境下ですべての単純写真、CT、MRI、IVR、PET 検査を含めた核医学検査の画像に対して画像診断報告書を作成してきた歴史のある施設です。現在においても増加する一方の画像検査のうち、すべての CT、MRI、核医学検査、及び一部の単純写真と消化管造影検査の画像診断報告書を短時間で作成しており、画像診断加算 2 を取



もくじ得しています。2019年にはPACSを更新して最新機器の環境下で業務しています。

放射線診断部門の研修では、レポート作成直後に診断専門医による直接指導を受けることが可能です。若手の専攻医、経験豊富な診断専門医がすぐそばにいて、相談のしやすい環境を作っているため、満足のいく研修を受けることが可能です。IVR（画像下治療）は肝細胞癌などの腫瘍に対する経カテーテル的動脈化学塞栓療法、ラジオ波治療、消化管出血や産後出血などの動脈塞栓術、B-RTO（胃静脈瘤塞栓療法）、中心静脈ポートカテーテル留置術、などに加え、各部位のガイド下生検とドレナージも多数実施しています。

放射線治療では根治治療から緩和治療まで幅広いがん患者を対象として照射を行っています。特にIMRT（強度変調放射線治療）やSBRT（体幹部定位放射線治療）といった病変部のみを高精度に治療可能な照射方法の実現によって副作用の低減が可能となり、患者の負担が少なく治癒率の高い治療を実践しています。

## Ⅶ. 研修目標（学修目標）

### A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

#### 1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

#### 2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

#### 3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

#### 4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

### B. 資質・能力（学修到達目標）

#### 1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

#### 2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頭部、胸部、腹部、骨盤、骨関節における正常画像を修得し、検査結果の読影を通じて、画像診断の初歩を修得する。
- ② 検査の適応、安全な検査を行う上での運用を修得する。
- ③ 放射線治療の基礎を学び、実際の症例を通して適応、効果、合併症などの知識を修得する。
- ④ 造影剤の適応と禁忌事項、および投与方法を修得する。
- ⑤ カンファレンスで症例のプレゼンテーションを行う。



## もくじ. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 与えられた症例の画像診断レポートを、適切かつ遅滞なく作成する。
- ② 放射線治療担当患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。

## 4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

## 5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ② チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。

## 6. 医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

## 7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。
- ③ 地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。
- ④ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ⑤ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑥ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

## 8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点を研究課題に変換する。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

## 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。



もくじ ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握する。

#### 10. 当科特有の目標

画像診断における頻度の高い疾患や緊急度の高い疾患などの画像所見を把握し、実際に診断レポートを作成することにより、必須の知識と技術を修得する。

放射線治療の代表的疾患の病態を把握し、実際に診療に携わることにより、放射線治療において必須の知識と技術を修得する。

- ① CT、MRI、核医学検査、単純写真などの各種画像診断の読影方法を身につける。
- ② 画像診断レポートの作成方法を修得する。
- ③ 造影CT検査などを通じ、造影剤についての知識を学ぶ。
- ④ 放射線治療に携わること、放射線治療の適応、効果、合併症などを学ぶ。
- ⑤ 放射線治療と画像診断を通じて、被ばくの基礎を学ぶ。
- ⑥ 患者や家族に対する病状説明に同席し、患者や家族の立場を理解できるようにする。

#### C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

##### 1. 一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

##### 2. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

##### 3. 地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

#### VIII. 研修方略

##### 1. 当科で経験できる症候、疾病、病態、その他

別表 研修分野別マトリックス表を参照のこと。

##### 2. 基本的診療業務

###### ① 外来診療

・診断部門

系統的な画像診断方法を学び、画像診断報告書を作成することで代表的疾患の画像所見を修得します。莫大な症例蓄積データから知りたい疾患の画像を学ぶことも可能です。研修修了時に症例検討カンファレンスを担当し、知識を深めます。

・治療部門

放射線治療の基礎的な知識を学び、主ながん腫における放射線治療の適応及び照射方法、有害事象を具体的に見て、将来の疾患の診療に役立てます。

###### ② 入院診療

・当科で入院ベッドは有しておらず、放射線治療やIVR施行患者は各診療科に入院しています。

入院中の放射線治療患者は平日毎日治療を行います。IVR施行患者については各診療科主治医と密に連絡を取り合い、術前と術後に回診を行って患者の状態把握と適切なフォローに努めています。



もくじ

③ 週間予定

時	月	火	水	木	金
8	読影室*	読影室*	読影室*	読影室*	読影室*
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス
17					

\*放射線治療研修時は、治療外来で行う。

- ・ 夕方の画像診断カンファレンスに参加し、画像診断を学ぶ。
- ・ 研修最終週に行われる研修医担当カンファレンスに参加し、質疑応答をうける。
- ・ 月曜 11 時 30 分からの医局会に参加する。
- ・ 各診療科との合同カンファレンスに参加する（不定期）。
  - IVR 術前カンファレンス：毎朝
  - 呼吸器治療カンファレンス：毎週水曜（放射線治療）
  - 婦人科画像カンファレンス：月 1 回
  - 肝胆膵カンファレンス：不定期
  - キャンサーボード：月 1 回
  - 整形カンファレンス：不定期
  - 乳腺カンファレンス：月 1 回（第一月曜）（放射線治療）

3. その他

- ① 診断部門での研修を通じて、高頻度な疾患や緊急度の高い症例について必要な知識とその後の対応を経験する。
- ② 診断レポートの指導医からの添削を通じて、適切な用語の使い方や問題点の抽出を学ぶ。
- ③ 診断部門での研修を通じて、造影剤副作用に対する必要な知識と治療法を経験する。
- ④ 治療外来での研修を通じて、放射線治療領域の必要な知識と治療法を経験する。
- ⑤ 放射線被ばくの必要な知識を経験する。
- ⑥ 患者や家族への病状説明やインフォームドコンセントに同席する。
- ⑦ 患者を全人的に捉えて、医学的のみならず、心理的、社会的問題を配慮し、患者、家族に適切な指導を行う。

4. 当直

放射線科としての当直は行っていませんが、24 時間 on call による緊急 IVR、読影、及び通常日勤帯以外の早番・遅番読影に随時参加しています。

IX. 研修評価

研修目標の達成度については、診療科ローテーション終了時に研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて、自己評価および指導医・メディカルスタッフによる評価を行う。（EPOC2 使用）

また、研修医評価票は研修管理委員会に提出され、半年に 1 回、形成的評価（フィードバック）を行う。